

関西医科大学 広報



総合医療センターでの記者会見の様子

国内初 “ICU患者の退室判断を支援する” AIプログラムの正式導入を開始

Vol.74

CONTENTS

トピックス：ICU支援AI導入記者会見 P.2

大学：BioMed 2026 P.4

大学：医学部教員評価優秀者表彰式 P.7

大学：3学部合同新入生合宿研修 P.10

大学：令和8年度科学研究費助成事業交付内定一覧他 P.15

病院：TAKE! ABI P.18

就任挨拶

医学部整形外科学講座主任教授 森田 充浩



令和8年5月1日付で関西医科大学医学部整形外科学講座の主任教授に就任しました森田充浩です。防衛医科大学校出身、前任は愛知県の藤田医科大学病院で股関節外科・関節リウマチ薬物療法・骨粗鬆症の薬物療法を3つの柱として診療に従事しておりました。特に人工股関節置換術や人工股関節再置換術・骨移植術が得意分野で、セメントレス人工股関節手術においては筋腱温存による低侵襲手技に基づく前方アプローチ(DAA:ダイレクトアンテリオールアプローチ)を中心にナビゲーション手術も行っていました。また、近年注目されている骨温存コンセプトのカーブドショートステム(CSS)を日本で早くから導入し、研究会・国際交流を通じて全国及び海外の若手医師への普及教育活動も行っております。患者さんの大腿骨形状や年齢・骨条件に応じた種々の人工股関節インプラントの選択・使い分けが得意で、術後の早期回復と長期臨床成績の向上に大変有用と考えております。ゴル

フやダンスなどのスポーツ選手の治療手段として人工股関節を行い良好な術後経過と運動復帰に寄与してきた経験もあることから、関西医大においても多くの患者さんの治療に貢献していけるよう頑張っていきたいと思っておりますので、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成4年3月	防衛医科大学校医学科 卒業
平成4年6月	防衛医科大学校病院 初任研修医
平成7年10月	米国Walter-Reed米陸軍病院 留学
平成8年8月	防衛医科大学校病院 整形外科 専門研修医
平成11年10月	防衛医科大学校 医学研究科 入学
平成14年3月	米国立衛生研究所(National Institutes of Health) 留学
平成15年9月	防衛医科大学校 医学研究科 修了
平成18年10月	自衛隊中央病院 整形外科 診療医官
平成19年8月	藤田保健衛生大学医学部 整形外科学 講師
平成25年4月	藤田保健衛生大学医学部 整形外科学 臨床准教授
令和4年4月	藤田医科大学医学部 整形外科学 准教授
令和8年5月	関西医科大学医学部整形外科学講座 主任教授

医学部乳癌外科学講座乳癌外科(総合医療センター) 担当診療教授 木川 雄一郎



令和8年4月1日付で、関西医科大学総合医療センター乳癌外科診療教授を拝命いたしました。乳癌診療は、早期発見、手術、薬物療法、放射線治療、遺伝医療、支持療法、サバイバーシップ支援まで、多くの専門職が連携して成り立つ領域です。治療成績の向上はもちろんのこと、患者さんが治療中も治療後もその人らしく生活できることを支える医療が、今後ますます重要になると考えております。

私はこれまで、乳癌の手術療法、薬物療法、多職種連携による患者支援に携わるとともに、患者さんの声を医療に生かすことを目指し、QOL評価や患者報告アウトカムに関する臨床研究にも取り組んでまいりました。

総合医療センターにおきましても、質の高い乳癌診療を提供するとともに、大学病院としての教育、研究、地域医療への貢献を大切

にし、若い医療者が学び、成長できる環境づくりにも努めてまいります。また、関西医科大学から新たな知見を発信できるよう尽力いたします。

微力ではございますが、乳癌外科学講座ならびに総合医療センターの発展に貢献できるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成12年3月	岡山大学医学部医学科卒業
平成12年6月	神戸市立医療センター中央市民病院 研修医
平成15年6月	神戸市立医療センター西市民病院 外科後期研修医
平成17年4月	神戸市立医療センター西市民病院 外科医員
平成24年4月	神戸市立医療センター中央市民病院 乳癌外科医長
令和2年1月	関西医科大学附属病院外科 助教
令和6年6月	関西医科大学乳癌外科学講座 講師
令和7年5月	関西医科大学乳癌外科学講座 准教授
令和8年4月	関西医科大学総合医療センター 診療教授

医学部整形外科学講座股関節外科(総合医療センター) 担当 診療教授 莫 賢一



令和8年5月に整形外科学講座の診療教授を拝命いたしました、莫(おおえ)です。平成17年より本学附属病院に勤務し、飯田寛和名誉教授の薫陶を受けながら、股関節外科を中心に診療・研究・教育に従事してまいりました。これまでに、人工股関節置換術5,258例、再置換術625例、臼蓋形成術226例、股関節鏡手術181例を経験し、現在も年間約350例の股関節手術に携わっております。特に、他施設で手術困難とされた再置換術・難治例への対応は当講座の特色の一つであり、全国から多くの患者さんをご紹介いただき、令和元年にはDoctor of Doctors Network「優秀臨床専門医」、令和6年には米国Best Doctors社「Best Doctors」に選出されました。また、整形外科医教育にも力を注ぎ、これまで600名以上の手術見学を受け入れております。

人工関節置換術は「世紀の大発明」とも称される優れた治療法ですが、私は「将来の再手術をできる限り減らす手術、再手術になってもやりやすい手術」をコンセプトに、長期成績を見据えた治療選択をしております。また、海外で研鑽した股関節鏡手術を平成24

年に導入し、プロスポーツ選手を含む患者さんに対して低侵襲かつ先進的な治療を提供してまいりました。さらに、臼蓋形成不全症に対する関節温存手術や重度変形例に対する再建手術など、患者さん・疾患に応じたオーダーメイド医療を心掛け、手術症例のみならず、常に「患者さんにとって最も適した治療」を提供する姿勢を大切にしております。今後は総合医療センターで貢献できればと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

略歴

平成12年3月	関西医科大学医学部卒業
平成12年5月	宇治徳洲会病院 研修医
平成14年4月	関西医科大学医学部整形外科学講座 医員
平成15年4月	玉造厚生年金病院整形外科 医員
平成17年4月	関西医科大学医学部整形外科学講座 医員
平成18年4月	関西医科大学医学部整形外科学講座 助教
平成23年4月	パリ大学(フランス)・エジンバラ大学(英国)・ベルン大学(スイス)・ラドバウド大学(オランダ) 臨床研究員
平成28年3月	関西医科大学医学部整形外科学講座 講師
令和2年11月	関西医科大学医学部整形外科学講座 准教授
令和8年5月	関西医科大学医学部整形外科学講座 股関節外科(総合医療センター)担当 診療教授

ICU支援AIプログラムを導入

医学部救急医学講座中森靖教授と株式会社MeDiCUとの共同研究により開発された『退室・転棟支援プログラム』と『症状詳記作成支援プログラム』が4月から総合医療センターに導入されました。

今回導入された『退室・転棟支援プログラム』は過去の統計情報をもとに容体が急変して再入室となる確率が高い患者さんを算出する国内初のAI製品です。医師の臨床経験に依存することなくICUでの治療を継続するか退室するかの判断を早期に開始することで高い精度でのリスク予測につなげるものです。

『症状詳記作成支援プログラム』は生体情報や電子カルテのデータをAIが解析し、症状詳記のドラフトを自動で生成。症状詳記の作成時間削減により、医師の大幅な負担軽減に繋がります。

導入に伴い4月15日(水) 11時から総合医療センター南館2階臨床講堂において記者会見が実施されました。

会見は総合医療センター広報委員会島谷昌明委員長の司会のもと進行。杉山隆病院長による挨拶、中森教授による正式導入の背景説明と株式会社MeDiCU木下喬弘代表取締役によるプログラムの詳細説明の後、救命救急センターの見学が行われました。



退室・転棟支援プログラムの説明を行う中森教授

名誉病院長称号授与式・名誉教授称号授与式

本学名誉病院長称号授与規程の定めるところにより、常任理事会の議を経て、総合医療センター杉浦哲朗前病院長へ、名誉病院長の称号が授与されることとなりました。4月1日(水) 15時から枚方キャンパス医学部棟13階第1応接室において名誉病院長称号授与式が執り行われ、山下敏夫理事長から名誉病院長称号が杉浦前病院長に授与されました。



山下理事長(左)、杉浦名誉病院長(右)

また、6月30日(火) 17時から同室において名誉教授称号授与式が執り行われ、木梨達雄学長から名誉教授称号が、齋藤貴徳前副学長(医学部整形外科学講座前教授)、同救急医学講座鎌方安行前教授、看護学部加藤令子前学部長(看護学部こども看護学領域前教授)に授与されました。



左から鎌方名誉教授、齋藤名誉教授、木梨学長、加藤名誉教授



令和7年度事業報告

本学の令和7年度事業報告をとりまとめ、公表しました。主な内容は以下の通りです。

今後は、100周年記念事業の検討を進めるとともに、附属病院別館建設、総合医療センター西館建設などを踏まえ、さらなる教育・研究・診療の充実を目指します。

法 人

● 100周年記念事業

創立100周年記念事業実行委員会を設置し、式典をはじめとした記念事業の検討に着手した。

● 附属病院別館建設計画

地盤工事が概ね完了し、地下階工事に着手した。

● 総合医療センター西館建設計画

設計・施工業者を選定し、10月に旧別館建物の解体に着手した。

● NEXT Oncology KMU JAPAN

令和7年10月、米国NEXT Oncologyと国際共同合弁事業契約を締結し、令和8年1月に合同会社「NEXT Oncology KMU JAPAN」を設立した。

● スマート病院構想

各附属病院における新しいIT技術やAIの導入による抜本的な病院機能改革について検討を進めた。

● 医療経営強化

医療関連部門の経営強化と増収を図るべく、8つのテーマについて検討を行った。具体的には、認知症予防や糖尿病診療の活動強化、救急医療体制の強化、入退院調整に係る連携強化、週末の入院化学療法の推進など保険診療の充実を図った。

教 育

■ 医学部・医学研究科

● 新医学教育改革2023

学長特別補佐を迎え、CBT・総合試験・卒業試験・医師国家試験に挑む学生への教育の見直しを進め、医師国家試験の合格率向上を果たした。

● トリノ工科大学とのダブルディグリー

国際大学院に6カ国25名が在籍し完成年度を迎えるとともに、新たにヴェネツィア・カフォスカリ大学とのダブルディグリープログラムを開始した。

■ 看護学部・看護学研究科

● 災害看護学領域の新設

新たに「災害看護学領域」を立ち上げ、看護学教育を強化する体制を整えた。

● DNPコースの開設準備

大学院教育を強化するため、博士後期課程にDNPコースの開設を目指し、米国の3大学を教員が訪問し、「教育・研究活動」の連携を図った。

■ リハビリテーション学部・生涯健康科学研究科

● 国家試験合格率

理学療法士・作業療法士国家試験は両学科とも合格率100%を達成した。

● 生涯健康科学研究科

生涯健康科学研究科では、開設初年度9名の学生を受け入れた。

研 究

● 私立大学等改革総合支援事業

私立大学等改革総合支援事業は、教育分野を含み、3件、採択された。

● 科研費獲得額

科研費の採択件数は251件、採択額は4億7,800万円となり、いずれも過去最多となった。

診 療

■ 附属病院

● 医療機器の更新

SPECT-CT装置、経食道用心臓超音波診断装置、集束型体外衝撃波治療装置の導入など、大学病院としての機能の維持向上に努めた。

● 救急医療の充実

「断らない病院」の実現を掲げ、救急患者の受け入れに努め、救急搬送は年間4,500件となった。

■ 総合医療センター

● 病院機能強化

予防医療センター及び糖尿病センターを開設、また歯科・口腔外科の診察室を拡充し、機能強化を図った。

■ 香里病院

● 予防医療センターの新設

予防医療センターを開設し、機能強化を図った。

■ くすは病院

● 収支予算の達成

収支差額は1億5,500万円と予算を達成した。

■ 天満橋総合クリニック

● 収支予算の達成

固定費や業務委託費の見直しによる支出削減を行い、収支差額は4,700万円と予算を達成した。

■ くすは駅中健康・健診センター

● センター独自検診コースの開始

既存の人間ドックに尿の μ RNAによるがんリスク検査を組み合わせた独自の人間ドックを45件実施した。

以 上

令和7年度・令和8年度の内部監査

内部監査室長 神崎 秀陽

令和7年度内部監査を下記の項目で実施し、その報告及び令和8年度内部監査計画を理事長に提出して承認されました。
本年度の内部監査も本学の業務が合法的且つ合理的・効率的に遂行されることを目指して評価し、本学の発展に資する助言ができるよう努めます。

1、令和7年度内部監査

以下の項目について点検・調査し、問題点の改善に向けて助言しました。

①年次監査

- 1)「公的研究費の管理状況(令和6年度対象)」
- 2)「教育プログラム(看護学部、リハビリテーション学部)」
- 3)「コメディカル組織」

2、令和8年度内部監査計画(年次監査)

- 1)監査項目：「公的研究費の管理状況(令和7年度対象)」
監査対象部門：研究部研究課及び関連部門
監査日程：令和8年6月～7月

選定理由：「公的研究費の管理・監査体制に関する規程」第36条に定める内部監査

2)監査項目：「広報関連監査」

監査対象部門：広報戦略室、3学部の入試関連広報担当、各附属病院の広報担当

監査日程：令和8年9月～12月

選定理由：マスコミ対応、入試関連広報、各病院の市民及び地域医師向けの広報活動等の点検

以 上

大 学

BioMed 2026

4月13日(月)から15日(水)にかけて、本学および摂南大学において、スプリングスクール(BioMed 2026)が開催されました。これは昨夏イタリアで実施されたサマースクール(BioMed 2025)に続き、学術協力の強化、学際的な対話の促進、そして長期的な国際関係の構築を目的として実施されたものです。イタリアのコンソーシアムや大学からも代表団が来日し、国際的な異分野間交流を深めるため国内の他大学も参加。14日(火)には本学枚方キャンパス加多乃講堂において、フィリッポ・マナーラ在大阪イタリア総領事、枚方市伏見隆市長が同席する中、本学とイタリアのヴェネト州、ヴェネツィア・カフォスカリ大学の3者間のMOU (Memorandum of

Understanding)締結式が行われました。3日間にわたり、医療を取り巻く様々な分野から研究者や学生の学術発表が行われ、盛況のうちに閉会しました。



MOU締結後の集合写真

ペッツォッティ学長特命教授らがPCT国際出願 第99回日本細菌学会総会で講演

医工学センタージュセッペ・ペッツォッティ学長特命教授は、共同研究企業とともに、口腔病原体由来の毒素を加水分解によって不活化するバイオセラミック粉末に関する研究で、PCT国際出願を行いました。本研究は、国際医工連携推進社会連携講座の一環として行われたもので、アルツハイマー病との関連が示唆される毒素を放出する特定の口腔病原体に対し、加水分解によって無毒化するバイオセラミック粉末に着目したものです。

3月20日(金・祝)、広島国際会議場(広島市中区)で開催された第99回日本細菌学会総会のランチョンセミナーで、同教授と共同研究企業が、本研究結果と応用展開

について講演しました。この技術を用いた口腔ケア製品などへの応用により、口腔環境の改善や全身疾患の予防研究への貢献が期待されます。



ペッツォッティ学長特命教授の講演

第96回解剖体追悼法要・遺骨返還式

5月15日(金)10時から臨済宗建仁寺派大本山建仁寺(京都市東山区)において第96回解剖体追悼法要が営まれました。関西医大白菊会役員、木梨達雄学長、金子一成副学長・医学部長をはじめとする教職員、医学部3学年学生らが参列し、施主代表の木梨学長が追悼の言葉を述べました。続いて僧侶による読経の後、参列者による焼香が行われました。

その後、11時から同所で遺骨返還式が挙行されました。医学の発展に寄与するため篤志によりご献体くださった故人のご遺族の方々へ、木梨学長から遺骨の返還が行われました。



追悼の言葉を述べる木梨学長

第45回白菊会総会

6月30日(火)13時から枚方市総合文化芸術センター1階ひらしんイベントホールにおいて、第45回関西医大白菊会総会が開催されました。本学教職員と篤志により医学教育のための献体を希望する会員ら100名が参加しました。第1部では木梨達雄学長、白菊会藤澤直子会長の挨拶、医学部上部消化管外科学講座山崎誠教授による特別講演の後に、行事・会計報告、卒寿記念品贈呈などが行われました。第2部では、白菊会堂迫千草副会長と堂迫康雄トリオの演奏による「堂迫千草オンステージ」が上演され、会場は大いに盛り上がりました。



木梨学長による挨拶

第1回大学院企画セミナー

5月16日(土)13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、令和8年度第1回大学院企画セミナーが開催され、教職員や学生など107名が参加しました。今回は「国の医療政策の決まり方」をテーマにシンポジウム形式で実施され、医学部メディカルデータサイエンス講座野田龍也教授をはじめ、医師や看護師の専門資格をもつ技術系官僚として厚生労働省に勤務する医系技官や看護系技官など、計8名が講演。講演者がこれまでに経験した事例を通じて、研究と行政をつなぐデータサイエンスの役割、医系技官や看護系技官が取り組む業務、地方行政における医療の課題などが紹介されました。



野田教授による講演

「施設設備拡充事業資金」の募集のご案内

令和7年度募金実績報告

昨年度も皆様より温かいご支援を賜りました。
学生の教育・研究活動を充実させる施設設備拡充事業に充当させていただきます。
改めて厚く御礼申し上げます。

	件数	金額(円)
教職員	1	84,000
同窓生	1	500,000
保護者	10	11,310,000
法人	1	100,000
その他	5	9,020,000
	18	21,014,000

令和8年度募集要項

募金の目的：関西医科大学施設設備拡充事業資金
募集主体：学校法人関西医科大学
募集対象：保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他

所得税が最大 40%減額されます

詳細は募金室ホームページをご覧ください。募金室までお問い合わせください。

なお、この募金の応募は任意です。

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@kmu.ac.jp

HP：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

令和7年4月から令和8年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	4月1日	名誉病院長称号授与式
	6月30日	業務改善コンテスト(法人・大学部門)
	6月30日	名誉教授称号授与式
大学	4月9日	看護学部短期留学報告会
	4月13日~15日	スプリングスクール(BioMed 2026)
	4月15日	中森教授 ICU 支援 AI 導入記者会見
	4月18日・19日	高齢者こころとからだの健康チェック
	4月19日	看護学部オープンキャンパス
	4月23日・24日	3学部合同新入生合宿研修
	4月26日	リハビリテーション学部オープンキャンパス
	4月27日	ラオス大使来訪
	5月1日	4学部合同授業(4学年・4年次)
	5月15日	解剖体追悼法要・遺骨返還式
	5月16日	第1回大学院企画セミナー
	5月18日	医学部教員評価優秀者表彰式
	5月29日	3学部合同授業(1学年・1年次)
	6月4日	枚方キャンパス災害(避難)訓練
	6月16日	国外臨床実習成果報告会
	6月20日	看護学部ホームカミングデー
	6月30日	白菊会総会
附属病院	4月28日	附属病院業務改善コンテスト表彰式
総合医療センター	4月23日・5月25日・6月30日	ミニ市民健康講座
	5月29日	TAKE! ABI 2026
香里病院	5月30日	市民健康講座
	4月18日	香里病院地域連携の会
くずは病院	5月16日	香里病院市民公開講座
	6月11日	第1回防災講演
卒後臨床研修センター	5月30日	令和9年度採用専門研修プログラム説明会
	5月30日	令和9年度採用医学生対象説明会「研修医と語ろう会」
看護キャリア開発センター	6月20日	リカレントスクール修了生の集い



業務改善コンテスト(法人・大学部門)



ラオス大使来訪

令和7年度医学部教員評価優秀者表彰式

医

5月18日(月)16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、令和7年度の「医学部教員の活動状況調査票」に基づく教員評価優秀者への表彰式が開催されました。

本学では平成15年から、教員個人の活動状況を定期的に点検・評価することにより、教育活動の激励または改善のための助言をし、教育、研究、診療などの向上を図ることを目的に教員評価を行っています。対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰[※]しており、今年度は准教授6名、講師15名、助教35名が選出されました。表彰式では木梨

達雄学長から受賞者に表彰状と副賞が贈呈されました。なお、教員評価表彰者一覧は本学Webサイトに掲載されています。

※各職位において通算3回表彰された教員は対象外



集合写真

准教授

NO.	氏 名	所属講座	評価区分
1	橋本 大輔	医学部胆膵外科学講座	臨床系
2	日原 正勝	医学部形成外科学講座	臨床系
3	吉田 謙	医学部放射線科学講座	臨床系
4	齊藤 福樹	医学部救急医学講座	臨床系
5	寿野 良二	医学部医化学講座	基礎教養系
6	徳弘 圭造	附属生命医学研究所ゲノム編集部門	基礎教養系

講 師

NO.	氏 名	所属講座	評価区分
1	尾形 誠	医学部内科学第一講座	臨床系
2	田原 智満	医学部内科学第三講座	臨床系
3	山階 武	医学部内科学第三講座	臨床系
4	水野 泰行	医学部心療内科学講座	臨床系
5	青木 宣篤	医学部精神神経科学講座	臨床系
6	池田俊一郎	医学部精神神経科学講座	臨床系
7	山内 杜作	医学部小児科学講座	臨床系
8	三城 弥範	医学部下部消化管外科学講座	臨床系
9	木川雄一郎	医学部乳腺外科学講座	臨床系
10	大野 博史	医学部整形外科科学講座	臨床系
11	谷口 久哲	医学部腎泌尿器外科学講座	臨床系
12	朴 将源	附属病院がんセンター臨床腫瘍科	臨床系
13	大江 総一	医学部解剖学講座	基礎教養系
14	林 美樹夫	医学部生理学講座	基礎教養系
15	近藤 直幸	附属生命医学研究所分子遺伝学部門	基礎教養系

助 教

NO.	氏 名	所属講座	評価区分
1	高橋 一久	医学部内科学第二講座	臨床系
2	高橋 広季	医学部内科学第二講座	臨床系
3	豊永 啓翔	医学部内科学第三講座	臨床系
4	中丸 洸	医学部内科学第三講座	臨床系
5	伊藤 嵩志	医学部内科学第三講座	臨床系

6	竹安 優貴	医学部呼吸器腫瘍内科学講座	臨床系
7	志田 有子	医学部心療内科学講座	臨床系
8	島津真理子	医学部心療内科学講座	臨床系
9	山本 修平	医学部心療内科学講座	臨床系
10	隠岐 光彬	医学部神経内科学講座	臨床系
11	中山健太郎	医学部神経内科学講座	臨床系
12	村上 綾	医学部神経内科学講座	臨床系
13	緒方 治彦	医学部精神神経科学講座	臨床系
14	佃 万里	医学部精神神経科学講座	臨床系
15	船楓 紀也	医学部精神神経科学講座	臨床系
16	村瀬 雄士	医学部精神神経科学講座	臨床系
17	橋本 祐希	医学部上部消化管外科学講座	臨床系
18	小林 壽範	医学部下部消化管外科学講座	臨床系
19	小林 史朋	医学部整形外科科学講座	臨床系
20	小倉 久幸	医学部リハビリテーション医学講座	臨床系
21	松岡 祐貴	医学部形成外科学講座	臨床系
22	池田 純一	医学部腎泌尿器外科学講座	臨床系
23	近江 正俊	医学部眼科学講座	臨床系
24	宇都宮敏生	医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	臨床系
25	友田 篤志	医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	臨床系
26	吉田 麻美	医学部放射線科学講座	臨床系
27	相原 聡	医学部麻酔科学講座	臨床系
28	添田 岳宏	医学部麻酔科学講座	臨床系
29	西本 浩太	医学部麻酔科学講座	臨床系
30	丸山 修平	医学部救急医学講座	臨床系
31	尾上 敦規	医学部救急医学講座	臨床系
32	勝島 詩恵	附属病院健康科学センター	臨床系
33	中野 洋輔	医学部解剖学講座	基礎教養系
34	川浦 孝之	医学部数学教室	基礎教養系
35	上村 允人	医学部生物学教室	基礎教養系

※調査対象期間（令和6年度）での職位を記載しております。

令和9年度医学部入学試験概要

医

試験実施日程								
	特別枠 学校推薦型 選抜試験 (専願制)	一般枠 学校推薦型 選抜試験 (併願制)	特色 選抜試験 (併願制)	一般選抜試験 (前期)	大学入学 共通テスト ・ 一般選抜試験 併用試験	大学入学 共通テスト 利用選抜試験 (前期)	一般選抜試験 (後期)	大学入学 共通テスト 利用選抜試験 (後期)
募集人員	10名	8名	2名	55名	13名	12名	8名	2名
出願期間 (期限翌日まで消印有効)	令和8年11月1日(日) } 令和8年11月11日(水)			令和8年12月10日(木) } 令和9年1月15日(金)			令和9年2月1日(月) } 令和9年2月19日(金)	
第1次 試験日	令和8年11月28日(土)			令和9年 2月2日(火)	令和9年 1月16日(土) 17日(日) 2月2日(火)	令和9年 1月16日(土) 17日(日)	令和9年 3月6日(土)	令和9年 1月16日(土) 17日(日)
第1次 合格者発表	令和8年12月2日(水)			令和9年2月15日(月)			令和9年3月12日(金)	
第2次 試験日	令和8年12月5日(土)			令和9年2月20日(土)・21日(日)			令和9年3月16日(火)	
第2次 合格者発表	令和8年12月10日(木)			令和9年3月1日(月)			令和9年3月19日(金)	
手続完了 期限	令和8年12月18日(金)			令和9年3月8日(月)			令和9年3月25日(木)	

別途地域枠5名(大阪府3名、静岡県2名)・研究医枠3名を、臨時定員増設置構想中。

令和9年度看護学部入学試験概要

看

試験実施日程							
	学校推薦型選抜試験		一般選抜試験		大学入学共通テスト利用選抜試験		
	専願制	併願制	2教科型	3教科型	2教科型	3教科型	5教科型
募集人員	50名		42名		8名		
	45名 指定校制含む	5名	10名	32名	3名	3名	2名
出願期間 (当日消印有効)	令和8年11月2日(月) }		令和8年12月14日(月) }		令和8年12月14日(月) }		令和8年12月14日(月) }
	令和8年11月9日(月)		令和9年1月20日(水)		令和9年1月15日(金)		令和9年1月20日(水)
試験日	令和8年11月22日(日)		A日程 令和9年2月6日(土) B日程 令和9年2月7日(日)		令和9年1月16日(土)・17日(日)		
合格者発表	令和8年12月1日(火)		令和9年2月15日(月)				
手続完了 期限	令和8年12月11日(金)		令和9年3月2日(火)				

令和9年度リハビリテーション学部入学試験概要

リ

試験実施日程								
		総合型選抜試験	学校推薦型選抜試験		一般選抜試験		大学入学共通テスト利用選抜試験	
			専願制	併願制	2教科型	3教科型	2教科型	4教科型
募集 人員	理学療法学科	12名	18名 指定校制含む	8名	4名	14名	2名	2名
	作業療法学科	12名	10名 指定校制含む	4名	2名	9名	2名	1名
出願期間 (当日消印有効)		令和8年9月18日(金) } 令和8年9月28日(月)	令和8年11月2日(月) } 令和8年11月9日(月)		令和8年12月14日(月) } 令和9年1月20日(水)		令和8年12月14日(月) } 令和9年1月20日(水)	
試験日		A日程 令和8年10月10日(土) B日程 令和8年10月17日(土)	令和8年11月22日(日)		令和9年2月7日(日)		令和9年 1月16日(土)・17日(日)	
合格者発表		令和8年11月2日(月)	令和8年12月1日(火)		令和9年2月15日(月)			
手続完了期限		令和8年11月11日(水)	令和8年12月11日(金)		令和9年3月2日(火)			

令和9年度医学部入学試験概要

医

試験実施日程								
	特別枠 学校推薦型 選抜試験 (専願制)	一般枠 学校推薦型 選抜試験 (併願制)	特色 選抜試験 (併願制)	一般選抜試験 (前期)	大学入学 共通テスト ・ 一般選抜試験 併用試験	大学入学 共通テスト 利用選抜試験 (前期)	一般選抜試験 (後期)	大学入学 共通テスト 利用選抜試験 (後期)
募集人員	10名	8名	2名	55名	13名	12名	8名	2名
出願期間 (期限翌日まで消印有効)	令和8年11月1日(日) } 令和8年11月11日(水)			令和8年12月10日(木) } 令和9年1月15日(金)			令和9年2月1日(月) } 令和9年2月19日(金)	
第1次 試験日	令和8年11月28日(土)			令和9年 2月2日(火)	令和9年 1月16日(土) 17日(日) 2月2日(土)	令和9年 1月16日(土) 17日(日)	令和9年 3月6日(土)	令和9年 1月16日(土) 17日(日)
第1次 合格者発表	令和8年12月2日(水)			令和9年2月15日(月)			令和9年3月12日(金)	
第2次 試験日	令和8年12月5日(土)			令和9年2月20日(土)・21日(日)			令和9年3月16日(火)	
第2次 合格者発表	令和8年12月10日(木)			令和9年3月1日(月)			令和9年3月19日(金)	
手続完了 期限	令和8年12月18日(金)			令和9年3月8日(月)			令和9年3月25日(木)	

別途地域枠5名(大阪府3名、静岡県2名)・研究医枠3名を、臨時定員増設置構想中。

令和9年度看護学部入学試験概要

看

試験実施日程							
	学校推薦型選抜試験		一般選抜試験		大学入学共通テスト利用選抜試験		
	専願制	併願制	2教科型	3教科型	2教科型	3教科型	5教科型
募集人員	50名		42名		8名		
	45名 指定校制含む	5名	10名	32名	3名	3名	2名
出願期間 (当日消印有効)	令和8年11月2日(月) }		令和8年12月14日(月) }		令和8年12月14日(月) }		令和8年12月14日(月)
	令和8年11月9日(月)		令和9年1月20日(水)		令和9年1月15日(金)		令和9年1月20日(水)
試験日	令和8年11月22日(日)		A日程 令和9年2月6日(土) B日程 令和9年2月7日(日)		令和9年1月16日(土)・17日(日)		
合格者発表	令和8年12月1日(火)		令和9年2月15日(月)				
手続完了 期限	令和8年12月11日(金)		令和9年3月2日(火)				

令和9年度リハビリテーション学部入学試験概要

リ

試験実施日程								
		総合型選抜試験	学校推薦型選抜試験		一般選抜試験		大学入学共通テスト利用選抜試験	
			専願制	併願制	2教科型	3教科型	2教科型	4教科型
募集 人員	理学療法学科	12名	18名 指定校制含む	8名	4名	14名	2名	2名
	作業療法学科	12名	10名 指定校制含む	4名	2名	9名	2名	1名
出願期間 (当日消印有効)		令和8年9月18日(金) } 令和8年9月28日(月)	令和8年11月2日(月) } 令和8年11月9日(月)		令和8年12月14日(月) } 令和9年1月20日(水)		令和8年12月14日(月) } 令和9年1月20日(水)	
試験日		A日程 令和8年10月10日(土) B日程 令和8年10月17日(土)	令和8年11月22日(日)		令和9年2月7日(日)		令和9年 1月16日(土)・17日(日)	
合格者発表		令和8年11月2日(月)	令和8年12月1日(火)		令和9年2月15日(月)			
手続完了期限		令和8年11月11日(水)	令和8年12月11日(金)		令和9年3月2日(火)			

令和9年度大学院医学研究科学生募集要項（修士・博士課程）

医

- 募集人員 医科学専攻修士課程8名・医学専攻博士課程50名
※第一次募集で定員に達した場合は、追加募集は実施いたしません。

■試験概要

	医科学専攻修士課程		医学専攻博士課程	
	第一次募集	追加募集	第一次募集	追加募集
入学願書受付期間	令和8年7月6日(月)～ 令和8年7月31日(金) 【当日消印有効】	令和8年10月13日(火)～ 令和8年11月20日(金) 【当日消印有効】	令和8年10月13日(火)～ 令和8年11月20日(金) 【当日消印有効】	令和8年12月14日(月)～ 令和9年1月22日(金) 【当日消印有効】
試験期日	令和8年 8月18日(火)	令和8年12月5日(土)	令和8年12月5日(土)	令和9年 2月6日(土)
合格発表	令和8年 9月9日(水) 正午	令和9年 1月13日(水) 正午	令和9年1月13日(水) 正午	令和9年2月26日(金) 正午

※出願資格によっては、事前の出願資格審査が必要な場合があります。
出願書類等、入学試験に関する詳細は、本学ホームページ(https://www.kmu.ac.jp/juk/fom_graduate/)をご覧ください。

令和9年度大学院看護学研究科学生募集要項（博士前期・博士後期課程）

看

- 募集人員 看護学専攻博士前期課程20名・看護学専攻博士後期課程5名（夏期冬期合計）
※夏期日程で定員に達した場合は、冬期日程は実施いたしません。

■試験概要

	看護学専攻博士前期課程		看護学専攻博士後期課程	
	夏期	冬期	夏期	冬期
出願期間	令和8年7月24日(金)～ 令和8年8月7日(金) 【必着】	令和8年11月20日(金)～ 令和8年12月4日(金) 【必着】	令和8年7月24日(金)～ 令和8年8月7日(金) 【必着】	令和8年11月20日(金)～ 令和8年12月4日(金) 【必着】
試験期日	令和8年8月23日(日)	令和8年12月20日(日)	令和8年8月23日(日)	令和8年12月20日(日)
合格発表	令和8年8月28日(金) 正午	令和8年12月25日(金) 正午	令和8年8月28日(金) 正午	令和8年12月25日(金) 正午

※出願するコース及び出願資格によっては、事前の出願資格審査が必要な場合があります。
入学試験に関する詳細は、本学ホームページ(https://www.kmu.ac.jp/juk/fon_graduate/)をご覧ください。

令和9年度大学院生涯健康科学研究科学生募集要項（修士課程）

リ

- 募集人員 生涯健康科学専攻修士課程8名

■試験概要

出願期間	令和8年8月3日(月)～令和8年9月4日(金)【必着】
試験期日	令和8年9月19日(土)
合格発表	令和8年10月14日(水) 正午

※出願資格によっては、事前の出願資格審査が必要な場合があります。
入学試験に関する詳細は、本学ホームページ(https://www.kmu.ac.jp/juk/fol_graduate/exam/admin.html)をご覧ください。

3 学部合同新入生合宿研修

4月23日(木)・24日(金)、スターゲイトホテル関西エアポート(泉佐野市)において1泊2日の日程で医学部、看護学部、リハビリテーション学部合同の新入生合宿研修が実施されました。1日目は、医学部学生部甲田勝康部長の挨拶からスタート。外部講師による講演、教育センター西屋克己センター長による講義の後、3学部合同のグループに分かれてグループワークが行われました。グループワークは、「医療専門職に共通して求められる素質」について意見を交わし、代表者がプレゼンテーションを行うもので、学生らは初対面となる交流に緊張した様子でしたが、徐々に打ち解け活発にコミュニケーションをとる姿が見られました。グループワーク終了後は新入生歓迎会で親睦を深め、1日目は終了しました。2日目は、各学部でのグループ討議とプレゼンテーションの後、川柳表彰式が行われ、閉講となりました。

川柳「関西医科大学で過ごす六年間または四年間についての意気込み」表彰

【医学部】	(最優秀賞)	迷いあれ ぶつかり悩み 医師となれ	山村 航太 さん
	(優秀賞)	白衣着て 叩いて渡るは 医師の橋	坪内 統哉 さん
【看護学部】	(最優秀賞)	技磨き 真心添えて 夢拓く	東 由実 さん
	(優秀賞)	9期生 みんなでなろう ニ刀流	尾藤 咲和 さん
【リハビリテーション学部】			
	(最優秀賞)	4年間 目と目をあわせ いざ医療の輪	森川 薫 さん
	(優秀賞)	失敗こそ 伸びしろ広げる リハビリだ	井手 鈴音 さん



挨拶を行う甲田学生部長



議論を交わす学生

合同授業（多職種連携教育）

5月1日(金)9時30分から、医学部・看護学部・リハビリテーション学部の4学年(4年次)学生と、摂南大学薬学部6年次生による合同授業が実施されました。枚方キャンパス医学部棟、看護学部棟、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟の各講義室の各会場に、医学部生、看護学部生、リハビリテーション学部生、摂南大学薬学部生が参加。授業では、学部を超えたグループが編成され、救急搬送から診察・検査、入院中、退院後のケアに至るまでの各場面について、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・薬剤師それぞれの専門的視点から活発な議論が行われ、学生たちは多職種連携やチーム医療への理解を深めました。

また、29日(金)9時30分からは、各学部棟の講義室において医学部・看護学部・リハビリテーション学部の

1学年(1年次)学生を対象とした合同授業も実施されました。終末期患者へのケアをテーマにしたカンファレンスを通して、各職種の役割や考え方を共有し、相互理解を深める貴重な機会となりました。



議論をまとめる学生たち

慈仁会役員・看護学部保護者会役員・リハビリテーション学部保護者会役員について

4月4日(土)入学式終了後、枚方市総合文化芸術センター関西医大小ホールにおいて「令和8年度慈仁会定期総会」が、6月6日(土)11時から枚方キャンパス看護学部棟3階講義室3において「令和8年度関西医科大学看護学部保護者会総会」が、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階大講義室1において「令和8年度関西医科大学リハビリテーション学部保護者会総会」がそれぞれ開催されました。今年度の各学部保護者会役員は以下の方々です。

慈仁会役員

- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| ●委員長 藤吉 庸雅 | ●会計委員 末藤 充男 | ●常任委員 中村 裕子 | ●常任委員 傍島 聰 | ●委員 中村 佳照 |
| ●委員 津田 昭 | ●委員 田中章太郎 | ●委員 金城 都博 | ●委員 島野 直人 | ●委員 伊藤 隆之 |
| ●委員 中元 剛 | ●委員 鳥居芳太郎 | ●監事 永末 純子 | ●監事 畑 洋 | |

看護学部保護者会役員

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ●会長 藍原 雅代 | ●理事 中川 靖子 | ●理事 吉松 裕友 | ●理事 野間 映美 | ●理事 山田 志穂 |
| ●理事 若林 智子 | ●理事 岡 孝夫 | ●理事 本多 奈央 | ●理事 玉野 明美 | ●会計 川野 育代 |
| ●監事 土井 尚 | ●監事 宮本 幸代 | | | |

リハビリテーション学部保護者会役員

- | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ●委員長 串田 信彦 | ●委員 戸谷 貴美 | ●委員 進藤 篤史 | ●委員 高橋美智子 | ●委員 渡邊 早苗 |
| ●委員 池野 幸代 | ●委員 三浦 明子 | ●委員 中野美由喜 | ●委員 河野 敦子 | ●委員 櫻井 恭子 |
| ●会計委員 木原智枝子 | ●監事 丸本 桂子 | | | |

災害（避難）訓練

6月4日(木)枚方キャンパス医学部棟において教職員・医学部(1～4学年)の学生を対象とした災害(避難)訓練が実施されました。当日は大地震が発生し、枚方市内は震度6強の強い揺れに見舞われたとの想定で訓練を実施しました。11時25分に訓練用の非常放送により法人危機対策本部が設置され、避難指示が出されました。担当職員の誘導の下、学生および教職員が医学部棟1階メインエントランス前に避難し、点呼と安否確認が行われました。その後、教職員による水消火器を使用した消火訓練を実施し、災害時における対応への意識を高めました。

同日14時10分からは、枚方キャンパス看護学部棟において看護学部1年次生を対象とした避難訓練が実施さ

れました。この訓練は学生への事前予告を行わないブライント型で実施され、実際の講義中に流れた地震発生の訓練放送に従い、学生たちは机の下にもぐり身の安全を確保しました。その後、クラス代表の学生が先導し所定の場所への避難が行われました。



消火器訓練を行う職員ら

国外臨床実習成果報告会

医

6月16日(火)17時15分から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、国外臨床実習成果報告会が開催され、約180名が参加しました。木梨達雄学長の開会挨拶の後、臨床実習に参加した6学年生たちが現地での実習や学び、日本との医療制度の違いなどを英語で報告し、全員に「前田慶子賞」が授与されました。これは本学の前身大阪女子高等医学専門学校出身の前田慶子先生の寄付を基に創設された国外臨床実習生向けの奨学金で、今回が初の授与となり、前田先生のビデオメッセージが上映されました。医学部金子一成学部長が総評で「挑戦する気持ちを持ち続けてほしい」と述べ、国際化推進センター友田幸一センター長による閉会挨拶で報告会は幕を閉じました。



前田先生のビデオメッセージとともに集合写真

短期留学報告会

4月9日(木) 16時30分から、枚方キャンパス看護学部棟3階講義室2においてアメリカ合衆国ミネソタ州立大学での2週間の留学プログラムに参加した看護学部学生らによる報告会が開催されました。報告会には、国際化推進センター友田幸一センター長、看護学部三木明子学部長をはじめとする多くの教職員・学生が出席しました。新入生からも19名の参加があり、短期留学への関心の高さがうかがえました。

学生からは、アクティビティや授業、メイヨークリニックなどの施設見学、ホストファミリーとの交流について多数の写真とともに報告され、充実した留学生活の様子が伝えられました。また、報告会最後の代表学生挨拶

は、英語でのスピーチにチャレンジするなど、大きく成長した姿が見られた報告会となりました。



短期留学報告会の様子

第1回ホームカミングデー

6月20日(土) 11時から枚方キャンパス看護学部棟4階討議室において、令和7年度卒業生を対象とした第1回ホームカミングデーが開催されました。当日は、本学附属医療機関や、他の様々な勤務先で活躍する卒業生に加え、教職員が参加。それぞれが現在力を入れて取り組んでいることを紹介したり、教員が自身の看護職としてのキャリアを振り返ってアドバイスしたりしながら、互いの近況を語り合いました。



談笑する参加者

高齢者こころとからだの健康チェック

4月18日(土)・19日(日)の2日間、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟で地域住民を対象とした『令和8年度高齢者こころとからだの健康チェック』が実施され、2日間で計138名が参加しました。参加者は、握力や特定条件下での歩く速度など、自身の様々なデータを測定したり認知機能検査を受けたりした後、結果をもとにフィードバックを受けました。

5回目の開催となった今回も、リハビリテーション学部生や大学院生涯健康科学研究科の学生、附属医療機関に就職した卒業生がスタッフとして、参加者の誘導や測定、運営に携わりました。学生スタッフからは「多くの高齢者の方々と関わることができ、とても貴重な経験に

なった」測定しながら高齢者の安全も確保することの難しさを改めて実感した」などの声が聞かれました。



学生スタッフによる問診

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

「分子のささやき」から新たな医学の可能性を切り拓く

医工学センター ジュセッペ・ペッツォッティ センター長・学長特命教授

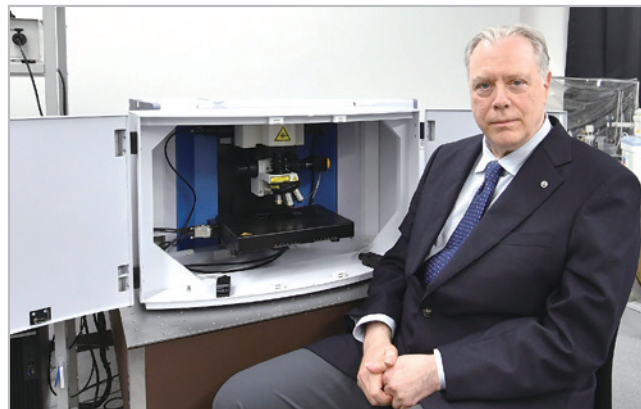
■先生の研究分野について教えてください。

私の主な研究分野は、ラマン分光法と分子医学を融合した「予防分子医学」ともいうべき分野です。

ラマン分光法は、物質にレーザー光を当てて、その物質が何でできているか、どのような状態にあるかを調べる分析方法です。レーザーを照射した際に試料から戻ってくる光には、入射光と異なる波長をもつラマン散乱光が含まれます。物質の分子振動に基づいて出てくる光であり、物質の分子構造により異なるスペクトルを示します。このスペクトルを分析することで、物質の同定や分布などを観察することが可能です。私はそれを「分子のささやき」と呼んでいます。ただしそれらは暗号のような形で出てくるため、解読する技術が必要です。私はこれまで、基礎物質のライブラリ整備と量子力学のアルゴリズムを用いたスペクトルの分光分析技術の開発にも取り組んできました。また、ラマン分光法で用いるレーザーは可視光であるため非侵襲的であり、試料の染色も必要なく、照射するだけで解析することができる画期的な方法です。

このラマン現象は1928年にインドの物理学者C.V.ラマンによって発見され、まもなく100周年の節目を迎えます。記念すべき100周年に向けて、現在、ラマン分光法に関する書籍を執筆中です。海外の出版社から全8冊が刊行される予定です。

分子医学は、アメリカの物理学者であるライナス・ポーリングが、病気の元は分子スケールにあるという分子病の概念を用いて提唱しました。遺伝子やタンパク質、その他の細胞レベルの分子がどのように機能しているのか、そのメカニズムを解析し、病気の原因や発症の仕組みを分子レベルで理解する医学分野です。私はラマン光を通じた「分子のささやき」に耳を傾けることで、様々な病気の予防や早期診断が可能であることに気がきました。病気の発症初期には、生体分子に変化が生じます。ラマン分光法ではこれらの分子の特徴を迅速に測定できるため、わずかな異常を検出することが可能です。つまり、ラマン分光法と分子医学を組み合わせることにより、さまざまな病気の早期発見・予防を実現する新たな医学の可能性を切り拓くことができたのです。例えばバジレットがんという乳がんがあります。非常に診断が難しいがんなのですが、ラマン光による分析により悪性か良性かを即時に判定できる技術を開発しました。また、新型コロナウイルス感染症蔓延の際は、ウイルスの変異株を数分で同定する技術も開発しました。



従来の遺伝子分析であれば数週間程度の日数や高額な費用がかかるものも、ラマン光による分析であれば費用も掛らず短期間での分析ができるのです。また、病気の発症のメカニズムがわかると、どのような薬を作ればよいか提案できます。分子遺伝学的に病気のメカニズムを理解することで、薬の効率的な新規開発にもつながります。

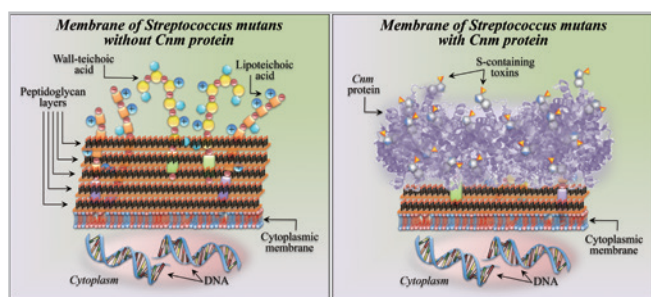
■先生は、6分野の博士号をお持ちです。どのようにしたらこれほど多くの分野の研究で実績をあげることが可能なのでしょう。

私は若い頃から勉強することが好きで、「自分の知らないことを知りたい」という強い好奇心を持っていました。ラマン分光法は幅広い分野に応用できる技術です。「分子のささやき」は、さまざまな情報を教えてくれるので、それら一つひとつを理解し、多くのことを知りたいという思いが、私の研究の原動力になっています。これまでラマン分光法を用いて、さまざまな学問分野の研究に取り組んできました。工学、医学(整形外科学・免疫学)、理学、農学、薬学の博士号を取得し、現在は、広島大学で学生として歯学博士の学位取得を目指して論文を執筆中です。これほど多くの学位を取得しましたが、学びを終えるつもりはありません。これまでわからなかったことが少しずつ明らかになり、新たな発見につながっていく過程に、学ぶことの楽しさと大きな魅力を感じているからです。そして、自分が得た学びをできる限り文章として書き残し、次の世代に残していきたいと考えています。

■取り組まれている研究テーマに関して、今後の展望などがございましたら教えてください。

私が取り組んでいる研究テーマは、多岐にわたります。

その中で「口腔内の虫歯菌と歯周病菌の研究」を紹介します。口腔内には多種多様な細菌が存在していますが、その中には脳梗塞の発症リスクを高める特定の虫歯菌が存在することが明らかになっています。この菌を保有する人は脳梗塞を起こす可能性が高く、日本人で該当する人は約13%と、決して少なくありません。また、歯周病菌は歯と歯茎の間に存在し続けますが、細胞外小胞(エクソソーム)を放出することが分かっています。その中に含まれる有害物質は、血液中に入り込んで全身へ運ばれます。特に脳へ到達すると、脳細胞に影響を与え、アルツハイマー型認知症の原因とされるアミロイド β の生成・蓄積を促進させます。



これらの神経疾患リスクの低減を目指し、技術の開発と研究を進めています。例えばラマン分光法を活用することで、脳梗塞リスクに関わる特殊なタンパク質(CNMタンパク)を持つ菌かどうかを迅速に判別することができます。つまり、個人のリスク評価に基づいた予防医療を実践できるのです。さらに企業との共同研究により、新しいバイオセラミック素材を活用した歯磨きツールやマウスピースなどの製作にも取り組んでいます。口腔内環境を改善し、口腔病原体から脳を守ることで、アルツハイマー型認知症をはじめとする神経疾患の予防につなげることを目指しています。今後は臨床試験を実施し、実用化に向けた検証を行う予定です。

■研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

私のモットーは、ライナス・ポーリングの「良いアイデアを生み出すためには、数多くのアイデアを出し、その中から間違っただけのものや面白くないものを捨てていく」という考え方です。この姿勢を、若い研究者の皆さんにもぜひ伝えたいと思っています。自分の考えがばかっているかもしれないと思う瞬間があったとしても、ためらう必要はありません。そして、実験で予想とは異なる結果が得られたときこそ、そのデータを大切にしてください。特に、教科書やこれまでの常識とは異なる結果には、新しい発見や発明につながる大きな可能性があります。「これはおかしいかな」と感じた瞬間に諦めるのではなく、自分自身を信じて探究を続けて、新たな発見や発明のきっかけにしてほしいです。

略歴

昭和59年 ローマ大学ラザピエンサ校工学部機械工学科 優等卒業
昭和62年 大阪大学産業科学研究所 特別研究員
平成3年 大阪大学大学院工学研究科 工学博士学位取得
平成5年 東北大学金属材料研究所 客員研究員
平成5年 豊橋技術科学大学物質工学系 助手
平成8年 京都工芸繊維大学工学部物質工学科セラミックス工学 助教授
平成12年 京都工芸繊維大学大学院工学部物質工学科セラミックス物理学(現 大学院工学科学研究科物質・材料科学域 物質・材料化学専攻セラミック物理学研究室) 教授
平成24年 東京医科大学 医学博士学位取得
平成26年 京都大学 理学博士学位取得
平成28年 東京医科大学 整形外科分野 客員教授
平成28年 京都府立医科大学大学院 医学研究科 特任教授
平成29年 京都工芸繊維大学 副学長(国際担当)及び同学教育研究基盤機構 国際センター長
令和2年 京都府立医科大学 医学博士学位取得
令和2年 ヴェネツィア大学カ・フォスカリ校 名誉フェロー
令和3年 ヴェネツィア大学カ・フォスカリ校 外部理事
令和3年 京都工芸繊維大学 副学長(連携研究ヘルスサイエンス担当)
令和4年 京都大学 農学博士学位取得
令和4年 トリノ工科大学ジャパンハブ 拠点長
令和5年 京都工芸繊維大学 理事・副学長(医工連携研究担当)
令和6年 関西医科大学 学長特命教授・医工学センター センター長
令和6年 文部科学省 Global × Innovation 人材育成フォーラム 委員
令和6年 京都信用金庫 海外連携アドバイザー
令和7年 大阪医科薬科大学 薬学博士学位取得
令和7年 ヴェネツィア・リド サン・カミッロIRCCS病院 科学アドバイザー
令和7年 ヴェネツィア・カフォスカリ大学関西医科大学学術ハブ ハブ長
令和7年 三重大学 客員教授
令和8年 帝京大学 医真菌研究センター 客員教授
令和8年 フェッラーラ大学 客員教授

受賞歴

平成29年 文部科学大臣表彰 科学技術分野 科学技術賞(研究部門)
令和3年 功労勲章受賞 イタリア共和国星勲章・カヴァリエーレ章

主な研究費採択歴

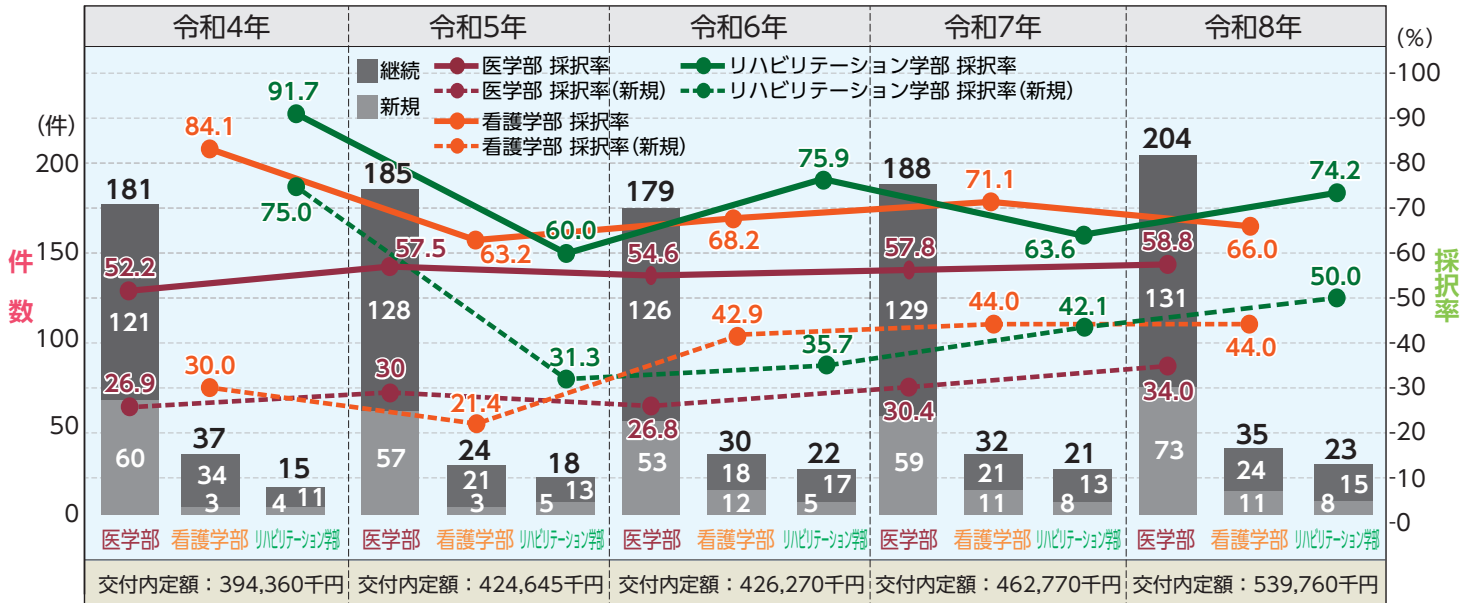
- 平成7年度 三菱振興財団助成金(10,000,000円)
- 平成10年度 東レ財団助成金(10,000,000円)
- 平成12~13年度 国際共同研究助成事業(NEDO Grant)「セラミックス粒界の量子構造とマイクロメカニクス」(82,000,000円)
- 平成15~16年度 科学研究費補助金 基盤研究B2「顕微ラマン分光とカソードルミネッセンスによるセラミックスとガラスの構造/応力解析」(9,300,000円/4,200,000円)
- 平成15~17年度 産学官連携型産業技術実用化開発費助成金(NEDO)「ナノ応力顕微鏡の開発」(初年度36,000,000円)
- 平成15~18年度 日伊科学技術協力プログラム(12,000,000円/12,000,000円/12,800,000円/12,800,000円)
- 令和元年度 Julian Schwinger Foundation 研究費(80,000ドル)
- 令和2年度 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)ウイルス等感染症対策技術開発事業(実証・改良研究支援)「新型コロナウイルス感染拡大を阻止する機能性材料とその界面構造の解析」(52,000,000円)

所属学会

日本セラミックス協会 会員(平成7年~)
日本股関節学会 会員(平成19年~)
イタリア国立大学評価委員 特別外部委員(平成24年~)
ポーロニャ研究所 科学アカデミア 名誉会員(平成25年~)
日本生理学会 会員(平成27年~)
日本生理学会 評議員(平成28年~)
日本口腔科学会 会員(平成28年~)

令和8年度科学研究費助成事業交付内定一覧他

令和4～令和8年度科学研究費採択推移



文部科学省・日本学術振興会関係

令和8年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額（直接経費）	交付内定額（間接経費）	交付内定額（合計）
学術変革領域研究（A）	1	2,700,000	810,000	3,510,000
合 計	1	2,700,000	810,000	3,510,000

(単位：円)

令和8年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額（直接経費）	交付内定額（間接経費）	交付内定額（合計）
基盤研究（B）	36	168,500,000	50,550,000	219,050,000
基盤研究（C）	164	173,800,000	52,140,000	225,940,000
若手研究	58	58,700,000	17,610,000	76,310,000
挑戦的研究（萌芽）	2	4,000,000	1,200,000	5,200,000
研究活動スタート支援	1	700,000	210,000	910,000
合 計	261	405,700,000	121,710,000	527,410,000

(単位：円)

令和8年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)交付内定者(代表者分)一覧(文部科学省)

研究種目等	交付内定額	
	直接経費	間接経費
学術変革領域研究(A) (公募型) 新規	2,700,000	810,000

(単位：円)

令和7年度科学研究費助成事業交付決定(追加：他大学から転入の代表者分等)一覧(日本学術振興会)

研究種目等	件数	交付決定額 (直接経費)	交付決定額 (間接経費)	交付決定額 (合計)
基盤研究(B)	3	10,800,000	3,240,000	14,040,000
基盤研究(C)	6	3,537,292	1,061,188	4,598,480
若手研究	3	2,600,000	780,000	3,380,000
挑戦的研究(萌芽)	1	2,500,000	750,000	3,250,000
研究活動スタート支援	2	2,400,000	720,000	3,120,000
決定額(追加分)合計	15	21,837,292	6,551,188	28,388,480

(単位：円)

厚生労働省関係

令和7年度厚生労働科学研究費補助金(代表者分)一覧

研究事業名	直接経費	間接経費	合計
難治性疾患政策研究事業	4,104,000	1,230,000	5,334,000
エイズ対策政策研究事業	2,813,668	705,395	3,519,063
合 計	6,917,668	1,935,395	8,853,063

(単位：円)

令和7年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(代表者分)一覧

研究事業名	直接経費	間接経費	合計
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	1,000,000	250,000	1,250,000

(単位：円)

令和7年度厚生労働省その他補助金(代表者分)一覧

研究事業名	直接経費	間接経費	合計
慢性疼痛診療システム均てん化等事業	20,000,000	0	20,000,000

(単位：円)

令和7年度厚生労働科学研究費補助金(分担者分)一覧(直接交付型分担)

研究事業名	件数	直接経費	間接経費	合計
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	2	3,255,292	792,601	4,047,893

(単位：円)



令和7年度厚生労働科学研究費補助金(分担者分)一覧(事務委任分)

研究事業名他	件数	直接経費
難治性疾患政策研究事業	6	2,650,000
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	2	2,200,000
地域医療基盤開発推進研究事業	1	200,000
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	3	1,500,000
がん対策推進総合研究事業	1	3,000,000
合 計	13	9,550,000

(単位: 円)

令和7年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(分担者分)一覧(事務委任分)

研究事業名他	直接経費
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	3,000,000
慢性の痛み政策研究事業	200,000
合 計	3,200,000

(単位: 円)

令和7年度労災疾病臨床研究事業費補助金(分担者分)一覧

研究事業名他	直接経費
労災疾病臨床研究事業	2,000,000

(単位: 円)

その他公的研究費

令和7年度 日本医療研究開発機構(AMED)、科学技術振興機構(JST)等 委託費等採択一覧

所管組織等	件数	直接経費	間接経費	合 計
日本医療研究開発機構(AMED)	34	189,850,898	55,795,267	245,646,165
科学技術振興機構(JST)	2	9,400,000	2,820,000	12,220,000
日本学術振興会(JSPS)	1	2,000,000	0	2,000,000
福島国際研究教育機構(F-REI)	1	4,290,000	429,000	4,719,000
農研機構生研支援センター(BRAIN)	1	1,000,000	300,000	1,300,000
環境再生保全機構(ERCA)	1	2,357,640	706,980	3,064,620
合 計	40	208,898,538	60,051,247	268,949,785

(単位: 円)

その他外部資金

令和7年度研究助成金等受贈

件数	助成額等
36	70,500,000

(単位: 円)

附属病院

久保田管理技師長が厚生労働大臣表彰を受彰

附属病院放射線部久保田裕一管理技師長が、厚生労働大臣表彰を受けました。多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続けた功績が称えられ、受彰が決定しました。

久保田管理技師長には、2月24日(火) 14時からイイノホール(東京都千代田区)で行われた表彰式において、表彰状が授与されました。

【コメント】

このたび、令和8年2月24日、東京・イイノホールにおきまして、令和7年度公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰を賜りました。このような栄誉ある表彰をいただきましたことは、ひとえにこれまでご指導、ご支援を賜りました皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。今後も後進の育成に努めるとともに、放射線診療学のさらなる向上と地域医療の発展に尽力してまいります所存です。



附属病院

看護部伊地知看護副部長が大阪府看護協会長表彰を受彰

令和8年度大阪府看護協会長表彰に附属病院看護部の伊地知仁美看護副部長が選ばれ、6月30日(火)に大阪市中心公会堂(大阪市北区)で行われた表彰式で、賞状が授与されました。大阪府看護協会会長表彰は、看護活動において社会貢献し、協会の事業推進に尽力した者に贈られる賞です。

【コメント】

現在、助産師職能委員長として、父親の育児支援や外国人妊産婦への支援に取り組んでいます。今後も地域全体で周産期看護の向上に貢献できるよう努めてまいります。



総合医療センター

「TAKE! ABI 2026」

5月29日(金) 11時から、グランフロント大阪北館タワーB10階カンファレンスルーム(大阪市北区)において「TAKE! ABI 2026」が開催されました。本学と日本血管外科学会がコラボレーションするかたちで開催された本イベントは、高齢者におけるアテローム血栓症のひとつである閉塞性動脈硬化症を早期に診断し、心疾患や脳血管障害発生防止を目的とするもので市民132名が参加しました。

「動脈硬化を予防して足を守ろう!」をテーマに同日開催された市民公開講座では、総合医療センター血管外科駒井宏好医師と同健康科学センター久保田真由美運動指導士による講演が行われ、体を動かしながら動脈硬化を学ぶ参加者の様子が見られました。その後、血管年齢

測定と医師による検査結果の説明が行われ、動脈硬化について学ぶ貴重な場となりました。



講演を行う駒井医師

香里病院

香里病院市民公開講座

5月16日(土) 14時から、アルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)(寝屋川市)において、「慢性疾患の予防と上手な付き合い方」をテーマとした春の市民公開講座が開催され、市民ら198名が参加しました。

岡崎和一病院長の挨拶の後、市民公開講座委員会延山誠一委員長が座長を務め、副病院長・総合診療科石丸裕康部長の「関節リウマチの診断と治療について」、内科塚口裕康部長の「腎疾患の早期診断と治療」、副病院長・整形外科上田祐輔部長の「骨折予防のために一骨密度検査受けていますかー」の3題が講演されました。講演の間にはリハビリテーション科三桝博史理学療法士による

健康体操の実演が行われ、参加者の方も熱心に取り組まれていました。



講演の様子

香里病院

ERセンター開設

4月付けで香里病院にERセンターが開設されました。急病や外傷により入院や手術を必要とする二次救急患者さんを中心に、24時間365日体制で救急診療を実施。センター開設に合わせて緊急入院時にもモニター管理が可能な病床を新たに整備することで、入院が必要な患者さんに対しても、よりスムーズな受け入れと適切な経過観察が行える環境を整えています。



卒後臨床研修センター

令和9年度採用専門研修プログラム説明会

5月30日(土) 13時45分から枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂において、令和9年度採用専門研修プログラム説明会が開催されました。

説明会では、本学の研修医47名、他病院研修中の研修医8名および医学生1名の合計56名が18ブースに分かれて各科のプログラムについて質問し、専門研修への理解を深めました。

なお、説明会終了後、臨床研修説明会との合同情報交換会を開催し、大盛況のうちに終了しました。



各ブースで理解を深める研修医

令和9年度採用医学生対象説明会「研修医と語ろう会」

5月30日(土) 14時から、枚方キャンパス医学部棟2階第2・第3講義室において、医学生向けの臨床研修説明会「研修医と語ろう会」が開催されました。

今年度は、本学学生87名、他大学学生27名の合計114名が参加しました。卒後臨床研修センター伊藤量基センター長による臨床研修概要説明、代表研修医による研修生活説明、新たな試みである「座談会形式による質疑応答」を通じて、本学の臨床研修プログラムに対する理解を深めました。

なお、説明会終了後、専門研修プログラム説明会との

合同情報交換会を開催し、大盛況のうちに終了しました。



熱心に説明を聞く学生ら

関医・看護師リカレントスクール第4回修了生の集い

6月20日(土) 10時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「関医・看護師リカレントスクール第4回修了生の集い」が開催されました。4回目となる今回は、17名の修了生が参加しました。開会にあたり、看護キャリア開発センター辻田幸子副センター長代理が挨拶し、その後、同看護師就業・復職支援部門の瀬戸奈津子部門長(看護学部慢性疾患看護学領域教授)による「生活者としてのキャリア」と題した講演が行われました。講演後には、今回初の試みとなる「看護師あるあるビンゴゲーム」が実施され、看護師ならではの経験やエピソードを題材としたゲームを通して、参加者同士の会話が弾み、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

続いて開催された交流会では、自身の近況報告に加えて復職のハードルを乗り越えた数々の体験が述べられ、

参加者同士が互いに励まし合い情報交換を行うなど、交流を深める様子がみられました。最後に安田照美統括看護部長の閉会挨拶で締めくくられ、同期生のみならず、修了生全体で交流が深まる催しとなりました。



挨拶する安田統括

看護師のための復職支援

関医・看護師リカレントスクール 第10期受講生募集!!

開講期間 9月30日(水)～12月2日(水)

応募受付期間 ▶ 7月1日(水)～8月31日(月) 定員 ▶ 10名程度

募集対象 ▶ 離職中かつ復職を検討・希望されている方

受講料 ▶ 無料 ※ただし、テキスト代、演習材料費等実費負担:8,000円

- ◆ 講義はリモート! e-ラーニングによる多様な学習を自宅で
- ◆ 最新の医療や看護の知識と技術の習得が可能
- ◆ 就職相談・個人面談の実施で、復職への不安を軽減

説明会申込▶

説明会、随時開催中
(対面の場合、
施設見学も可能)

応募フォーム▶



関西医科大学 看護キャリア開発センター TEL 072-804-2849 E-mail rikarent@kmu.ac.jp

創立記念日オベリスク

6月30日は本学の創立記念日です。令和8年の創立記念日当日は天候に恵まれ、正午には医学部棟正面にあるオベリスクの側面のスリットから光が差し込み、銘板に刻まれた関西医科大学の文字が照らされました。このオベリスクは医学部学舎開設時に記念として建てられたもので、高度で精緻な設計技術により実現したモニュメントです。





学会賞等受賞情報

令和8年4月～6月の学会賞受賞者等を紹介します。

最優秀演題

医学部心療内科学講座 蓮尾 英明 教授

- テーマ がん患者の不眠障害に対する在宅心拍変動バイオフィードバック
- 授与団体 第31回日本緩和医療学会学術大会
- コメント 早期からの緩和医療において、患者さん・家族の症状に対するコーピングなど、非薬物的治療の重要性に関する内容をご評価いただきましたことに、感謝申し上げます。



Most Cited Paper Award

医学部胆膵外科学講座 里井 壮平 教授

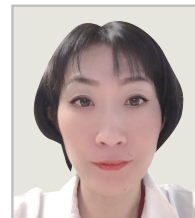
- テーマ Conversion surgery in patients with pancreatic cancer and peritoneal metastasis
- 授与団体 Journal of Gastrointestinal Oncology (JGO)
- コメント 研究は2012年から多機関共同第2相試験として行ってきた膵癌腹膜播種に対する治療奏功後のconversion surgeryにかかるpooled analysisです。この取り組みは本邦のみ、われわれの研究グループのみで臨床研究が行われており、非常に良好な成績が得られています。今後膵癌全体の治療成績を改善するためには、遠隔転移膵癌の治療成績を改善することが急務であり、その一つの選択肢として提示しました。



優秀論文賞(英文誌)

医学部衛生・公衆衛生学講座 村上 由希 講師

- テーマ Association between serum omentin-1 concentrations and body composition measured by dual-energy X-ray absorptiometry in Japanese elementary school-aged children.
- 授与団体 一般社団法人日本生理人類学会
- コメント この度、一般社団法人日本生理人類学会より、このような名誉ある賞を受賞し、大変光栄に存じます。本研究は地域在住の学童を対象に、アディポカインの一つであるOmentin-1と体組成との関連を横断的に解析したもので、血清Omentin-1が脂肪組織の質を反映する可能性を示唆しました。共著の先生方のご協力とご指導に心より感謝申し上げます、今後も精進してまいります。



優秀演題賞

附属病院健康科学センター・医学部呼吸器腫瘍内科学講座 勝島 詩恵 診療講師

- テーマ 化学療法を受ける肺がん患者における体重減少に関連する要因の検討
- 授与団体 第13回日本カヘキシア・サルコペニア学会
- コメント がん患者さんにおける体重減少は治療効果の低下につながる予後不良因子であるので、化学療法中の肺がん患者さんを対象に、体重減少に関連する因子を検討し、オーラルフレイルと味覚障害がいずれも独立した体重減少のリスク因子です。より強固な医科歯科連携や食欲不振に加え味覚障害へのアプローチの重要性を報告しました。がん診療における新たな課題を与えられ、今後も診療・研究に邁進したいと存じます。



travel grant

医学部胆膵外科学講座 山木 壮 診療講師

- テーマ Survival Impact After Resection for Postoperative Recurrence or Metastasis of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Analyzed Using a Time-Dependent Cox Regression Model
- 授与団体 58th EPC and IAP joint meeting
- コメント この度、第58回European Pancreas ClubとInternational Association of Pancreatologyのjoint meetingにて、travel grantの選出いただき、大変光栄に思います。本研究は、日本国内9施設が共同で作成した膵癌患者のデータベースを使用し、再発・遠隔転移膵癌症例における、集学治療後の限定的な患者に対しては、手術による切除が生存改善に寄与する可能性を示しております。このような機会を与えていただいた里井教授、橋本准教授、参加施設のみなさまに感謝申し上げます。



優良賞

医学部心臓血管外科学講座 西山 正行 助教

- テーマ Limited adoption of PEA for CTEPH in Japan: A comprehensive literature review
- 授与団体 6th East Asia Society of Pulmonary Hypertension
- コメント この度は国際学会である6th East Asia Society of Pulmonary Hypertensionにて優良賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。留学先であるドイツでの慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)治療の経験から、日本とドイツとの治療方針の違いについて発表させていただきました。この国際的な評価を励みに今後も大血管・肺循環治療の発展に貢献できればと考えています。最後に心臓血管外科学講座小山忠明主任教授、岡田隆之教授をはじめご指導いただいた先生方に深く感謝申し上げます。





最優秀奨励賞

卒後臨床研修センター 伊藤 綾華 研修医

- テーマ クランベリーによる過活動膀胱症状の改善効果と尿細菌叢への影響：ランダム化二重盲検プラセボ対照比較試験
- 授与団体 第37回日本尿症・尿失禁学会総会学術集会
- コメント この度は最優秀奨励賞をいただき大変光栄に存じます。小児科学講座では医学部5年の頃からスチューデントアシスタントとして研究のお手伝いをさせていただいています。今回、学生時代に与えていただいたテーマで一つのことを成し遂げられたことを、大変うれしく思います。これも金子教授をはじめ、辻先生、赤川先生、講座の先生方のご指導あってこそであり、心より感謝申し上げます。今後もこの経験を糧に、努力を重ねてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



優秀ポスター賞

医学部内科学第三講座 濱田 友佳 大学院生

- テーマ PDGF/PDGFR signaling and mucosal cytokine activity contribute to fibroblast activation in Crohn's disease-associated intestinal fibrosis
- 授与団体 Digestive Disease Week 2026 (DDW 2026)
- コメント このたび、米国シカゴで開催されたDigestive Disease Week 2026(DDW 2026)において、優秀ポスター賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本研究は、Crohn病腸管線維化の病態におけるPDGF/PDGFRシグナルの関与について検討しました。日頃よりご指導を賜っております先生方に深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、病態解明につながるよう研究をさらに発展させていきたいと考えております。



学会長賞

医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 LE THI KIEU NHI 大学院生

- テーマ Signaling by $\alpha 4$ nicotinic acetylcholine receptor exacerbates type 2 airway inflammation.
- 授与団体 第6回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会(JIAIO)総会・学術講演会
- コメント 群馬県で開催された第6回JIAIO年次総会において、奨励賞選考会にて会長賞を賜り、大変光栄に存じます。私にとって、この賞は単なる賞という枠を超え、博士課程における重要な節目において、心からの励ましとなりました。研究における一つ一つの小さな努力、疑問、課題、そして緻密な実験が、将来的に疾患の理解を深め、患者ケアの向上という大きな道へと繋がることを改めて実感しました。この道のりを共に歩んでくださった八木正夫教授、神田晃教授、共同研究者、そしてスタッフの皆様には、ご指導、ご支援、そして温かいお心遣いに心より感謝申し上げます。今回の受賞を糧に、ニコチン性受容体の免疫学的役割と、アレルギー性気道疾患に対する治療標的としての可能性について、さらに探究を続けてまいります。



学生優秀発表賞

附属光免疫医学研究所 原 大貴 大学院生

- テーマ 近赤外光免疫療法のための新規ケイ素フタロシアニン誘導体のin vivoにおける体内動態および治療効果の評価
- 授与団体 日本薬学会第146年会
- コメント この度、日本薬学会第146年會にて学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に思います。本研究では、新しいがん治療法である近赤外光免疫療法のさらなる治療効果の向上を目指し、有機合成化学のアプローチによる新規薬剤の開発に取り組みました。このような形で研究成果を評価いただき、大きな自信になりました。ご指導を賜りましたすべての先生方、関係者の方に心より感謝申し上げます。この経験を励みにして、今後も研究の発展のため力を尽くす所存です。



最優秀演題賞

リハビリテーション学部作業療法学科 蓬萊谷 耕士 助教

- テーマ Cadaverを用いた固有小指伸筋腱尺側枝の短軸滑走動態の観察的検討
- 授与団体 第38回日本ハンドセラピー学会学術集会
- コメント 本研究は、医学部整形外科学教室ならびに解剖学教室の先生方との共同研究であり、多大なご支援・ご指導をいただきました。本研究の結果は、これまで着目されていなかった腱の動態を観察したもので、手の治療の成績向上に寄与するものと考えております。今後さらに発展させ研究に努めたいと思います。



優秀症例賞

附属病院薬剤部 藤井 良平 薬剤師・主任

- 受賞理由 がん専門薬剤師更新申請において提示した症例が優秀症例として評価されたため
- 授与団体 日本医療薬学会 第13回がん専門薬剤師全体会議
- コメント がん専門薬剤師は、がん薬物療法に関する高度な知識と臨床経験を有する専門資格です。このたび、更新申請で提示した症例を優秀症例として評価いただき、大変光栄に存じます。日頃よりご指導・ご支援いただいている皆様に感謝申し上げます。今後も患者さんに寄り添った質の高い薬学的支援を実践できるよう努めてまいります。



優秀演題賞

附属病院感染制御部 坂本 凌 薬剤師

- テーマ 黄色ブドウ球菌菌血症に対するマネジメント・バンドル導入の効果と予後予測因子の検討
- 授与団体 第100回日本感染症学会総会・学術講演会 第74回日本化学療法学会総会 合同学会
- コメント この度は優秀演題賞を賜り、大変光栄に存じます。黄色ブドウ球菌による菌血症は死亡率が高く、適切な管理が求められます。本研究では、心エコー検査や血液培養の確認、抗菌薬治療など必要な診療項目を一括して実施するマネジメント・バンドルを導入し、治療の遵守率と患者さんの予後が改善することを明らかにしました。本受賞を励みに引き続き感染症診療の質向上に貢献してまいります。ご指導いただきました皆様に心より感謝申し上げます。





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に令和8年4月1日～6月30日 ※判明分のみ)

■ テレビ等

総合医療センター 杉山 隆 病院長 医学部救急医学講座 中森 靖 教授	NHK大阪「はっと関西」 (4月15日)	ICU患者さんの退室判断を支援するAI予測システムを総合医療センターが正式導入する旨の発表と、杉山病院長のコメントが合わせて放送されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「旬感LIVEとれたてっ!」 (4月23日、5月12日) 関西テレビ「newsランナー」 (5月7・25日) 関西テレビ「ドットとコネクト」 (5月9日)	宮下先生が、「ハンタウイルス」や「はしか」、「原因不明の風邪」について解説しました。
総合医療センター 島谷 昌明 副病院長	FMCOCOLO CIAO765 (4月28日)、 ZIP-FM77.8「ASAHI INTECC Dream Together」(5月9日)	島谷副院長がゲスト出演し、医師人生を振り返るとともに自身が開発したバルーン内視鏡を使用したERCPや総合医療センターの予防医療体制について解説しました。
総合医療センター 樋口 隆弘 公認心理師	NHK「天才オピアニストの今夜もグッジョブ」 (4月28日)	樋口公認心理師が出演し、公認心理師を目指したきっかけやこれまでの経験などを語るとともに、パーソナリティーやリスナーからの質問に答えるかたちで仕事の魅力を紹介しました。
医学部救急医学講座 中森 靖 教授	NHK「首都圏情報ネタドリ」 (5月22日)	AIと医療をテーマに取り上げた番組で、救急現場でのAI実用化例として、中森教授が共同開発したICU患者の死亡リスク予測AIの関西医科大学総合医療センターでの導入事例が紹介され、中森教授のコメントと合わせて放送されました。
医学部内科学第二講座 入江 潤一郎 診療教授	テレビ朝日「健康官～サインを見逃すな～」 (5月27日)	入江診療教授が血糖値について取り上げた番組に出演し、特定の乳酸菌を続けて摂取することでHbA1cの数値が下がることが分かったと解説しました。
医学部腎泌尿器外科講座 増尾 有紀 助教	FM845「ワカバンNEO」 (5月27日)	増尾助教が出演し、女性泌尿器外科とはどのようなところか、また女性に多い泌尿器疾患である骨盤臓器脱や尿失禁がどのような病気か、骨盤底筋の緩みに関する話題を交えて説明しました。
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授	BSテレビ東京「教えて！ドクター 家族の健康」 (5月30日、6月6日)	倉田教授が出演し、目覚まし進歩を遂げている肺がん治療の手術や放射線治療、薬物療法について解説しました。
医学部救急医学講座 中森 靖 教授	NHK WORLD-JAPAN (6月13日)	医療分野におけるAIの活用について取り上げた番組で、救急現場でのAI実用化例として、中森教授が共同開発したICU患者の死亡リスク予測AIの総合医療センターでの導入事例が紹介され、中森教授のコメントと合わせて放送されました。

■ WEBメディア等

医学部呼吸器腫瘍内科学講座 延山 誠一 准教授	寝屋川つーしん (4月1日)	喫煙者の咳について、肺の炎症である可能性を注意喚起する延山准教授の解説が掲載されました。
医学部救急医学講座 中森 靖 教授	共同通信他・病院新聞.com(4月15日)、 m3.com(4月16日)	中森教授が、ICU患者さんの退室判断を支援するAI予測システムを総合医療センターに導入する旨を記者会見で発表したことが掲載されました。
医学部生物学教室 岡野 圭子 講師	QLifePro (4月17日)	岡野講師らの研究グループが、体内時計の「環境に左右されない正確さ」はタンパク質に内蔵されていたと明らかにした研究成果を発表したことが掲載されました。
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授	がん情報サイト「オンコロ」 (4月27日)	小細胞肺癌に関するメディアセミナーにおける、倉田教授による小細胞肺癌がん治療の歴史や最新の治療法などの解説が、コメントと合わせて掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	日経メディカル (4月27・28日、6月26日)	加藤教授が作成ワーキンググループの代表・責任者を務めた「うつ病診療ガイドライン2025」について、「CQ(クリニカルクエスト)」を用いたフローチャートを導入した改訂および「後続治療」という新たな章を設けた改訂の解説や、自己記入式の評価尺度の解説やBZ系薬の併用への注意喚起が加藤教授のコメントと合わせて掲載されました。
医学部下部消化器外科講座 渡邊 純 教授	QLifePro (5月14日)	渡邊教授らの研究チームが、大腸手術におけるICG蛍光血管造影により術後の縫合不全リスクを約40%低減することを証明した旨が掲載されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	ABEMA的ニュースショー (5月17日)	宮下診療教授がハンタウイルスに関するリモート取材を受け、その内容が専門家の見解として、番組内で放送されました。
附属病院脊髄神経センター 齋藤 貴徳 常務理事・センター長	毎日メディカル (5月28日)	齋藤常務理事が担当する連載コラム「行列のできる整形外科」の中で、整形外科疾患で多い座骨神経痛が取り上げられ、原因不明の場合に疑う病気の一つである梨状筋症候群の解説が掲載されました。
附属病院角膜炎センター 佐々木 香 センター長	朝日新聞デジタル (5月31日)	薬剤耐性菌を取り上げた記事の中で、佐々木センター長による抗菌薬が効かなくなっている現状の解説や抗菌薬の処方・使用方法への注意喚起が掲載されました。
関西医科大学 山下 敏夫 理事長	m3.com (6月5・9・16・23・30日)	山下理事長が、本学の経営改善の取り組みや今後の展望などを語ったインタビュー(全5回)が公開されました。
医学部肝臓外科学講座 小坂 久 講師	QLifePro (6月8日)	小坂講師らの研究グループが進行胆道がんにおける免疫化学療法の効果を検証し、患者さんの状態に応じた治療選択が重要であることを明らかにした旨が掲載されました。
附属病院新薬開発科 清水 俊雄 教授	m3.com (6月10・17・24日)	血液がんの抗体医薬として扱われる「二重特異性抗体」について、特徴や開発に至った経緯を解説した清水教授のインタビュー(全4回)の第1～3回が掲載されました。
医学部PS・幹細胞再生医学講座 人見 浩史 教授	日経バイオテク (6月11日)	人見教授ら研究グループが、ヒトiPS細胞から傷ついた腹膜を修復する細胞の作製に成功した旨、指定難病・遺伝性血管性浮腫(HAE)の病態をiPS細胞で再現することに成功した旨がそれぞれ掲載されました。
附属病院角膜炎センター 佐々木 香 センター長	メディカルトリビューン (6月17日)	佐々木センター長が、抗菌薬の不適切な点眼が角膜創傷治療を遅延させることを示した論文を解説し、抗菌薬点眼の適正使用を喚起する自身の考察が合わせて掲載されました。
医学部整形外科講座 上田 祐輔 講師	寝屋川つーしん (6月18日)	関節の痛みに潜む疾患や受診のサインについて上田講師が解説した記事が掲載されました。
医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 濱田 聡子 講師	寝屋川つーしん (6月24日)	副鼻腔炎(ちくのう症)の原因や症状、治療方法を濱田講師が解説した記事が掲載されました。
医学部内科学第一講座 長尾 梓 診療講師	マイナニュース (6月30日)	長尾診療講師が女性の血友病に関するセミナーに登壇し、医療関係者に出血性疾患の早期発見を促す啓発活動を行っていることや、疾患を抱えたままの妊娠・出産は重大なリスクにつながるということがコメントと合わせて掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

医学部小児科学講座 西崎 直人 診療教授	読売新聞 朝刊 (4月3日)	読者からの質問への回答記事で、西崎診療教授が「腹圧性尿失禁の症状や有効な治療法」を解説しました。
医学部救急医学講座 中森 靖 教授	日刊工業新聞 (4月16日)、 毎日新聞 朝刊 (4月23日)	中森教授が、ICU患者さんの退室判断を支援するAI予測システムを総合医療センターに導入する旨を記者会見で発表したことが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (4月18日)	介護現場でのカスタマーハラスメントを取り上げた記事の中で、三木教授の「事業所は職員、利用者双方を守る具体策を練る必要がある」とのコメントが掲載されました。
総合医療センター 血管外科 駒井 宏好 医師	毎日新聞 朝刊 (4月22日)	足の血管が詰まって起こる下肢閉塞性動脈硬化症(ASO)を取り上げた記事で、発症のリスクや認知度が低いことが駒井医師のコメントと合わせて掲載されました。
医学部内科学第一講座 石浦 嘉久 診療教授	家庭画報6月号 (5月1日)	日常生活の様々な刺激によってのどに違和感が出て咳が止まらなくなる「咳過敏症候群」について、石浦診療教授による診断の手順や治療方法の例などの解説が掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	日経メディカル 特別編集版 (5月20日)	加藤教授が作成ワーキンググループの代表・責任者を務めた「うつ病診療ガイドライン2025」について、客観的な評価尺度を用いた症状の定量化、薬物療法の注意喚起などの解説が加藤教授のコメントと合わせて掲載されました。
医学部眼科学講座 石本 敦子 助教	読売新聞 朝刊 (5月24日)	石本助教が白内障や緑内障などの目の病気について解説し、その危険性や早期発見の重要性を呼びかける内容が掲載されました。
広報戦略室 矢島 祥行 部長	広報会議2026年6月号 No.209 (6月1日)	広報分野の専門月刊誌「広報会議」の「大学広報最前線」コーナーで本学広報戦略室の取り組みが取り上げられ、ブランディング広告や万博出展支援に注力したこと、附属病院サイトリニューアルを実施しエンゲージメント率改善を達成したことなどが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (6月3日)	埼玉県川口市でケアマネジャーの女性が利用者家族に殺害された事件に関する記事の中で、三木教授がトラブルのある訪問先の情報共有や危険を事前に回避する研修等、事業所の組織的な対応が大切であると述べました。
医学部医化学講座 小林 拓也 教授	日刊工業新聞 (6月29日)	小林教授ら研究グループが、赤および緑を識別する錐体視物質の3次元構造を原子レベルで特定し、霊長類の色覚物質を解明した旨が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

この度の令和8年熊本地震による被害につきまして、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。
ここ数年は6月ですら猛暑だった記憶がありますが、今年は冷房がいらないくらい涼しい6月でした。
でも梅雨が明けるとやはり暑くて、セミも鳴き始めたのでようやく夏を実感しました。今年の夏も、熱中症など体調には気を付けてお過ごしください。
(Y)

関西医科大学広報 Vol.74

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>
E-mail:kmuinfo@kmu.ac.jp

令和8年8月21日(金)発行